

入選

小さな親切

栃木県 峰小学校 五年

武内 結輝

みなさんは、「きつ音」のことを知っていますか。ぼくは、小さいころからきつ音があります。きつ音には、特に、言葉が詰まったり、言いたいことが出てこなくなるというしょうじょうがあります。

ぼくは、そのきつ音が大きいです。ぼくはお話が好きで、言いたいことや、伝えたいことがあるのに、きつ音のせいで上手にしゃべれないのです。人とのお話が好きなぼくにとっては、なんともめいわくな個性だと感じています。

その理由は、きつ音を治す方法は、だれにもわからないのに、笑われたり、まねされたり、からかわれたりすることがあるからです。ぼくは、わざと詰まったりしていないのに、笑われたり、まねされるのもとてもいやでした。

そして、きつ音はぼくにとって不便でもあるのです。言葉が詰まってしまうので、自分が今すぐ言いたいことがあるときに、なかなか言葉が出てこないため、先に言われてしまったりします。ぼくにとって、それもつらいことです。

例えば、特にぼくの心に残っていることは、二つあります。一つ目は、「なんで話すのがおそいの。」と言われたとき、自分でもわからず説明できなかつたことです。このときは、きつ音が出てしまったときよりも、説明できなかつたことがくやしかつたです。

二つ目は、4年生のとき、総合の発表をする時間にきつ音が出てしまい、人が笑ったり、まねする行動は、やっぱりいやでした。でも、ぼくの総合の発表が終わって、席にすわると、席の周りの友達がやさしく、

「大丈夫。落ち着いて。ゆっくりしゃべって大丈夫。」

と言ってくれたときは、何よりとてもうれしかつたです。そのときぼくは、悲しくモヤモヤしていた気持ちだが、その言葉と同時に一気にきれいな晴れ空に変わりました。

すると、その後は少しずつ、きつ音が気にならなくなっていきました。治ってはいないけれど、小さな親切で人の心は変わるのだな、と初めて思いました。ぼくは、その落ち着いたやさしい言葉がとてもうれしかつたです。ぼくも、このような言葉を友達だけでなく、みんなにやさしくかけたいです。

今では、ぼくの友達は全員やさしいです。そして、きつ音があるからこそ、友達から小さな親切をもらっているのだと思います。

きつ音でも、たくさん親切をして、もっとやさしく、良い人になりたいです。これからは、きつ音を悪い個性だと思わず、逆に良い個性だと思って、楽しく過ごしていきたいです。

また、この個性とうまくつき合いながら、人にやさしく、人のいたみがわかる人でありたいです。